

## 使徒の働き 9:32-12:25

使徒 9:32-12:25

2017.7.28

エはは、 ・アイネヤ、ドルカスの復活、ハクテロの十字架復活は、 9:32-43 12:1-24

異邦人と、と父ろ関係があるaか、??? Q.

ILHLUE TX4"IP. アンテオケ

→A. -9:31 まごと くらべみ!

変化 きゅう かん キリスト人 コダヤ人 + 異称人 ⇒ 数合・キリスト人

- · IIVサレムの7人(6:) アンテオケの方人(13:)
- · ステ181 の記言(7:) サウロ1910の1ップラスマ(やみか)先/復活)(9:) + 22:1-21 聖書に満たない、(7:55) シケ:発験的 聖書に満たない(9:47) + 26:2-23
- . 信仰と聖雲に満ちたステペノ(6:) . 聖室と信仰に満ちたバルナバ (11:24)
- 1970 Pイネヤ ドルカス たききあかる サウロでは (例れて まききあかる (q:8, 26:2-23)
- · 人の子D. ゴルネリオ、名フ . サウロ、アナニヤ、名フ 正して、評判の定い(10:2,22) - 敬虔で、評判の定い(22:12)

使徒行伝の9章32節から12章25節までの分析をしています。「このように(福音が)広がっていきました」という間に囲まれているところなので、ここが一つの段落だろうということです。

ルダでのアイネヤの復活、ヨッパでのドルカスの復活、そして、この段落の終わりの方(12章)に行くと、突然という感じですけれども、ヘロデの下でヨハネの兄弟ヤコブが殺され、ペテロが捕らえられたけど復活する。これはイエス様が復活したストーリーにそっくりなところです。ルカ5章の中風の人が歩く、ヤイロの娘が復活する、ナインのやもめの息子が復活するみたいな話にそっくりな復活のストーリー(9章)に囲まれて、カイザリアでカペナウムの百人隊長コルネリオの話、7章、8章、5章あたりの話に似ていますけれど、このカイザリアでコルネリオという人のストーリーで、御霊が異邦人にも降りましたということがずっと言われて、その話をエルサレムに行った時に証明します。

特にこの11章19節から30節のところにアンテオケの教会が始まったという箇所がついています。ルダ、ヨッパ、カイザリアでの話。この復活するという話、ペテロの十字架と復活。これが異邦人の救いと何か関係があるはずなのですけど、どういうことだろうということです。答えは9章31節までと比べなさいという風にここに書いてありますけれど、似ているのですね。エルサレムの7人が6章、アンテオケの5人が13章にあったり。ステパノの証言があって、そのステパノの証言によってサウロが救われるところも似ています。聖霊に満たされる。バルナバとステパノも同じような人物だったり。サウ

ロ、パウロが目から鱗が落ちるところですけど、光に照らされて倒されますけれども、 起き上がる。この起き上がる。パウロの復活と洗礼のところですね。ペテロとコルネリ オ。ペテロが無割礼のコルネリオと幻の話で話が進みます。割礼を受けているサウロ は、アナニアと幻の話でこのストーリーが導かれています。コルネリオもアナニアも敬 虔で評判の良い人ですということで、ペテロの話とサウロの話も似ているというような ことを見て下さい。

9章の31節までにどういうことを話してたかというと、割礼を受けたユダヤ人がエル サレムの教会として始まっている。ユダヤ人の中からキリストを信じる者たちが集めら れて教会が始まっているのですけれど、その教会はキリストの十字架、そして復活に よって、エルサレムに集まっていた人たちに聖霊が降って始められた教会です。今度こ の9章までのところは、そのエルサレムの教会が十字架にかけられているというのが、 ステパノの石打ちです。ステパノの十字架のようなものですよね。キリストのようなス テパノが殺されて、それによってエルサレムの教会が散らされる。ステパノの時に起 こった迫害によって散らされる。散らされるのですけれど、アンテオケの教会において 復活しているような感じです。アンテオケの教会は復活するわけですけども、異邦人に 聖霊が降っていると。アンテオケは、そういう意味でエルサレムの教会が復活したよう な感じです。ステパノの十字架によってパウロが復活。ステパノの復活した人みたいな 感じですかね。ですから、キリストの十字架と教会が生まれること、体がよみがえるこ と。これがこの復活するよというストーリーと、異邦人も含めたキリスト人の教会が新 しく生まれるよということが並行しているものなので、ここ(11章)でステパノのことで 起こった迫害のために、いったんエルサレムの教会は散らされて殺された感じですね。 でも、アンテオケでもう一度ちゃんと繋がって生まれました。生まれましたの後に、ペ テロの十字架と復活の話があるのですけども、最後にバルナバとサウロは任務を果たし た後に、エルサレムから帰ってきたというように囲まれているのですね。11章30節と 12章25節に囲まれて、ペテロの話がありますということです。

この出来事自体は「その頃」と書いてあるのですけど、当時の資料によって、アガボという人が飢饉があって、クラウディオ帝の時の話や、ヘロデでがどうした、ヘロデが死にましたみたいなものを見ると、ヘロデが死んだのがAD44年で、飢饉が起きたのが46年。バルナバ、サウロのクラウディオ帝のこの辺の話は、これが多分46から47年でしょうということなので、実は「その頃」と書いてありますけど、これはちょっと一個前の話ですね。年数がアンテオケの教会が始まるちょっと前の出来事です。ですから、ステパノのことで起こった迫害によって、教会が十字架につけられたけど復活したんですよ。復活した教会ですよ。復活した教会というものは、割礼を受けている人も割礼を受けていない人も信じる者がキリスト人になる教会ですよ。それが生まれましたということが、このルダ、ヨッパ、ペテロの十字架のストーリーがここに書かれているという意味なのではないかなという分析です。